



鹿児島県立甲南高等学校

# 進路指導室だより

平成28年度 第2号(6月20日発行)

「グローバル化は必要なのだろうか？」

こんな質問をされたらどう答えるか。交通手段の発達によって、人や物の行き来が容易となり、インターネットの普及で情報は瞬時に国境を越えていく現在の状況を考えると、すでに世界はグローバル化されており、「必要か？」という問い自体がナンセンスに思える。ではなぜ「グローバル化」という言葉を最近よく耳にするのかというと、経済活動の課題として取り上げられているからである。必要性の主な理由は、マーケット（日本製品の販売網）の拡大であるのだが、これは人口減少による日本国内の需要縮小や労働力不足の課題と無関係ではなく、企業はグローバルに展開せざるを得なくなっている。また、天然資源に乏しい日本は単独で経済活動を存続させることは難しく、国際的に協力し合っていかなければならない。企業や会社が国際的となり、日本国内であっても様々な国の人たちが一緒に働くのが当たり前となり、日常生活までグローバル化が進むかもしれない。そのような時代の流れの中でグローバル人材が求められている。

裏面に第1回進路希望調査集計結果（4月実施）を載せてある。皆さんが志望する大学の中に、グローバル人材育成に力を注ぐスーパーグローバル大学（S.G.U.）37校中の18校が入っている（北海道大、東北大、筑波大、千葉大、東京大、東京外語大、東京工業大、東京芸大、名古屋大、京都大、大阪大、岡山大、広島大、九州大、熊本大、早稲田大、慶応大、立命館大）。これらのS.G.U.を見てみると、文系理系関係なく、すべての学部学科が対象になっていることが分かる。政治経済はもちろん日常にまでグローバル化が進むと、法律や福祉、医療も国際的に対応しなければならない。技術職、研究職も世界中がマーケットならば、世界中の人びととコミュニケーションをとり、顧客のニーズや最先端の技術、知識を手に入れなければならない。また、歴史や文化、地理的背景はお互いの相互理解に必要となる。グローバル化の対応はあらゆる分野での課題となる。

では、グローバル人材になるにはどのような要素が必要なのだろうか。政府のグローバル人材育成推進会議中間まとめ（2011年6月）では、次の3つが挙げられている。

- I. 語学力・コミュニケーション能力
- II. 主体性・積極性、チャレンジ精神、協調性・柔軟性、責任感・使命感
- III. 異文化に対する理解と日本人としてのアイデンティティ

「この3つがそろそろ人などいるのだろうか、相当の努力が必要」と思うかもしれない。しかし、IIはどれも心構えに関するもので、今日にでもこうなりたいと思う気持ちがあれば、これからの行動に現れていつかなれそうに思える。IIIも自分とは違う歴史や文化をもった人だという自覚があれば、コミュニケーションを重ねた分だけ相互理解も深まるだろう。コミュニケーションが苦手だと思っている人でも、文化も歴史も違う者同士であるからこそ、空気を読むなんて所詮無理だしお互い様なので、気兼ねなくコミュニケーションが取れるかもしれない。Iの語学力も学校の英語の成績は良いに越したことはないがなんとかかなりそうである。英語がほとんどしゃべれなくてもアメリカでバイトをしながら、生活の中で語学力を身につけ、今では教授になっている人や、まったく日本語も英語もできないのに日本の大学に留学してきた外国人の話は様々なところで聞く。チャレンジ精神があればなんとかできるようである。新学期スタートの4月、希望や不安の中で書いた進路希望、1学期も後半になり希望通り充実している人や不安が的中して悩んでいる人もいるかも

しれない。希望進路の変更もあるかもしれない。でも不安から逃れるための希望進路の変更だけは避けたい。変更しても不安はなくなるのでさらなる変更を考えてしまうだけで不安の解決にはならない。そうではなく、不安だからこそ勇気を持ってチャレンジする気持ちをもってほしい。やれることはまだまだある。自分の可能性を低く見積もることなく、様々な意見を活かして、甲南塾で西田さんが言われていたように、才能を生み出してほしい。その思いは、自然とグローバル人材にふさわしい姿勢になっていくはずだ。